

かわらばん

技術者のつぶやき



荒川上流河川事務所では、現場からの声や工事に関する情報を公式SNS(XやFacebook)やホームページで発信しています。今回は、これまでに発信した「技術者のつぶやき」をいくつかご紹介します。ぜひ、SNSやホームページをご覧ください。

工事情報



X(旧Twitter)



Facebook



2

佐田建設(株)



東松山市葛袋地先で築堤護岸工事を行っている佐田建設(株)現場代理人の関根です。2023年8月より工事を開始しており、現在河道掘削・鋼矢板の圧入を施工しております。現場は安全に努めて参りますので地域の皆様にはご理解、ご協力よろしくお願い致します。 #荒川 #都幾川

1

初雁興業(株)

東松山市石橋地区で石橋盛土その1工事を担当している初雁興業(株)現場代理人の志村です。令和5年10月から盛土工事を開始しICT®技術を活用し、品質の向上・生産性アップ、ヒューマンエラーの防止に務め無事完工まで頑張りたいと思います。

#荒川 #都幾川



5

小川工業(株)

埼玉県比企郡川島町地先で築堤工事を施工している小川工業(株)現場代理人の林です。ICT®技術を活用し、業務効率・生産性をアップさせ無事故で完工せます。仕事を楽しもう!をモットーに頑張ります!

#荒川 #入間川 #越辺川



※ICT…情報通信技術(Information and Communication Technology)の略称



もっと詳しく知りたい!



プロジェクトの最新情報は荒川上流河川事務所のホームページからもご覧いただけます。

本プロジェクトで推進中の入間川・越辺川・都幾川の堤防整備工事、河道掘削工事については、早期整備を目指し鋭意施工中です。



原次郎～治水にかける熱い情熱～

現在、令和7年度の事業完了に向けて荒川の支川（入間川、越辺川等）の工事を進めています。

支川の工事に関連して、過去に三川分流工事に尽力された原次郎という人物がいます。今回は、その原次郎について紹介します。

原次郎

武州ガスの創始者原次郎は、入間川の治水に大きな功績を残しました。原次

郎が生まれた1895(明治28)年頃の紺屋は農家が80軒ほどの集落でした。入間川、越辺川の氾濫で水害に見舞われ、耕地が泥水につかり、農作物は半分、よくても七分ほど実ればいいという状態だったため、貧しい村でした。この村の庄屋である原家に生まれ、六代目を継いた原氏は、村の惨状を見るにつけて「治水を図り、貧困をなくすこと」を強く心に誓ったといいます。そして、「人間は努力することで不可能を可能にすることができる。きっと、できる、と信じて頑張った。」と残されている言葉のとおり、原次郎の尽力により1943年に入間川、越辺川、小畔川は国の直轄改修工事河川に指定され、入間川水系の治水は大きく進展しました。



荒川上流の職員が
実際に見に行きました！

原氏の尽力により国による改修事業が行われた入間川・越辺川・小畔川の合流部



治水彰功碑は、落合橋上流の堤防の上にあり、治水彰功碑に書かれている文章は当時の池田梅吉建設大臣（国土交通大臣）が書いています。大東亜戦争中・戦後の混乱の時期に、入間川流域の治水事業に情熱と熱意をもって尽力した彼の功績が忍ばれ、越辺川、小畔川の様子を今も見守っているようでした。また、この場所は、秩父連山や富士山を望むことができる所以、お近くによつた際にはぜひ立ち寄つてみてはいかがでしょうか？

コラム

武州・入間川プロジェクト

原氏の創立した武州ガス株式会社、荒川上流河川事務所、公益財団法人埼玉県生態保護協会が主体となり、入間川流域で環境保全活動を行っている市民団体等を支援するための活動助成を実施しています。

入間川流域で市民の方々の河川、環境・防災及び地域の歴史や将来の姿について関心を高め、地域社会の活性化を目指します。

これまでの助成活動については
こちらからも見ることができます。



助成団体の主な活動

入間川小学校では、河原の岩石を形や大きさ、重さ、見た目等の特徴を図鑑等で調べたり、検査キットを使って夏と冬の水質検査をする体験学習を行いました。



活動報告展の開催

本年も12団体が地域と連携して、さまざまな活動を展開されました。「そらや武蔵狭山」様のご協力で、活動パネル展を開催しました。



国土交通省 関東地方整備局

荒川上流河川事務所

【事業に関するお問合せ】

●流域治水課 荒川緊急治水対策推進室
049-246-6360

【工事に関するお問合せ】

●越辺川出張所
0493-34-3129

●入間川出張所
049-231-0458